エコアクション２１

環境経営レポート

２０２３年度

運用期間　2023年7月1日～2024年6月30日

有限会社吉川重機･産廃部

2024年8月18日　発行

2024年10月15日　改訂

【 目 次 】

表 紙 …1

目 次 …2

1. 事業概要 …3～5

1)事業者名及び代表者名
2)所在地
3)環境管理責任者及び事務局及び連絡先
4)法人設立年月日及び資本金
5)対象範囲
6)事業規模
7)推進組織図
8)許可の内容及び施設の状況
9)マティリアルフロー
10)受託した産業廃棄物収集運搬の実績及び運搬料金

2. 環境経営方針 …6

3. 環境経営目標 …7

4. 環境経営目標の実績 …8

5. 環境経営計画とその取組結果及び評価 …9

6. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画 …10

6－2. 次年度の環境経営目標 （詳細） …10－2

7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無 …11

8. 代表者による全体の評価と見直しの結果 …11

1. 事業概要

1)事業者名及び代表者名

有限会社　吉川重機
代表取締役　吉川正人

2)所在地

本社　　:　　〒880-0212　宮崎県宮崎市 佐土原町下那珂7685－4番地
産廃部事務所　　〒880-0212　宮崎県宮崎市 佐土原町下那珂7353番地
産廃部土場　　〒880-0212　宮崎県宮崎市 佐土原町下那珂7353番地

3)環境管理責任者及び事務局及び連絡先

EA－21　責任者　:　産廃部　　図師一男　　(専務)
EA－21　事務局　:　産廃部　　斉藤美喜代

連絡担当者　:　図師一男　(EA21責任者)
TEL　0985－36-2123　　FAX　0985－36-2355
E-meil :tec-yosikawa@estate.ocn..ne.jp

4)法人設立年月日及び資本金

設立 1981 年　5 月　1 日〔設立より43年〕　　資本金10百万円

5)対象範囲

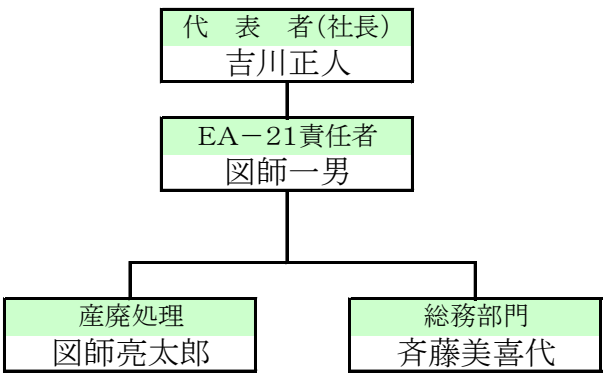
組織･･･　産廃部事務所･土場
活動･･･　産業廃棄物収集運搬業、　産業廃棄物中間処理業
　　建設業（解体工事業）

レポート対象期間　　表紙に掲載
レポート発行日　　表紙に掲載

6)事業規模

項目	単位	2020年	2021年	2022年	2023年
処理高〔産廃部〕	t	28,000	32,300	29,500	**32,576**
売上高〔産廃部〕	百万円	102	250	308	48363
内解体工事件数	件	70	88	109	125
解体工事売上高	百万円	73	136	185	310
従業員数	人	9	11	13	14
床面積	m2	40	40	40	40
敷地面積	m2	10,000	10,000	10,000	10,000

7)推進組織図



8）許可の内容及び施設の状況

①産業廃棄物収集運搬業許可証

許可番号	宮崎県　《第04500110196号》
積替え・保管の有無	なし
産業廃棄物の種類	廃プラスチック類　紙くず　木くず　繊維くず　汚泥　廃油 ゴムくず　金属くず　ガラスくず　廃アルカリ　鉱さい　廃酸 ｺﾝｸﾘｰﾄくず及び陶磁器くず がれき類
許可年月日	令和６年４月２日
許可の有効年月日	令和11年4月1日

②産業廃棄物処分業許可証

許可番号	宮崎市　《第09320110196号》
事業の区分	なし
産業廃棄物の種類	● 中間処理業〔破砕〕に係るもの がれき類 ガラスくずコンクリートくず及び陶磁器くず
許可年月日	令和6年3月21日
許可の有効年月日	令和11年3月18日

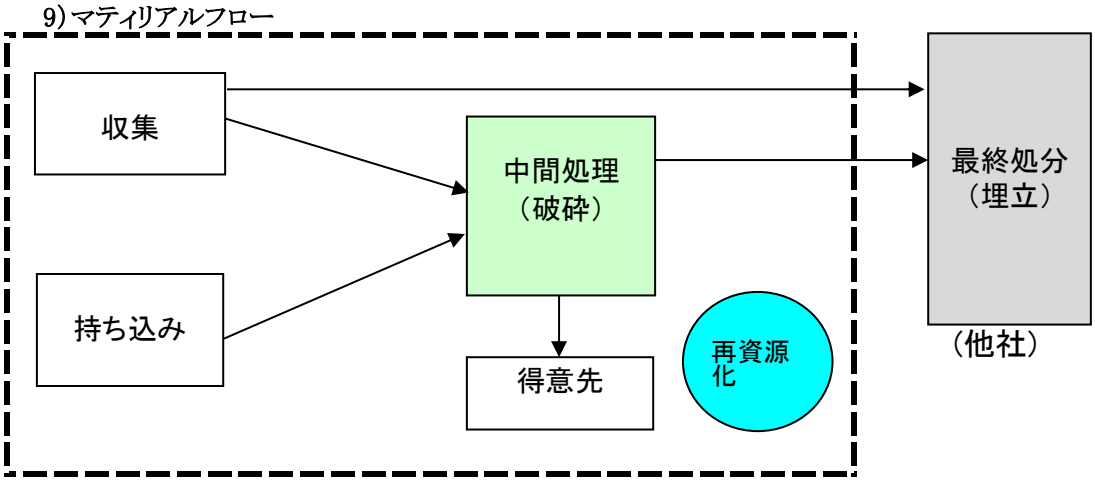
≪処理施設・処理能力　≫

中間処理(破砕)	
種類	がれき類　ガラスくず 陶磁器くず
処理能力	200t／日〔8時間〕
その他	移動式　〔但し、社外へ移動しての使用実績はなし〕

③事業の用に供する車輌

			用途〔○　使用　×　未使用〕		
登録番号	トン数	車両名	収集運搬業用	処分業用	
宮崎130い3366	9.5t	ダンプ	○		
宮崎130あ3377	9.0t	ダンプ	○		
宮崎130あ3388	10t	ダンプ	○		
宮崎130さ4411	3.95t	ダンプ	○		
宮崎430そ2211	2t	ダンプ	○		
宮崎11ゆ1016	8t	ダンプ	○		
宮崎100と2222	2t	ダンプ	○		
宮崎100あ2436	3t	ｷｬﾌﾞｵｰﾊﾞｰ	○		
宮崎130か8158	13t	ｷｬﾌﾞｵｰﾊﾞｰ	○		
宮崎100か4556	6.8t	ｷｬﾌﾞｵｰﾊﾞｰ	○		
宮崎130あ3399	8.5t	ダンプ	○		
宮崎130す4422	3.6t	ダンプ	○		＊ 2021年度増
宮崎130す4400	3.2t	ダンプ	○		＊ 2021年度増
宮崎130せ4433	3.3t	ダンプ	○		＊ 2023年度増
宮崎131ち8800	7.8t	ダンプ	○		＊ 2023年度増

9）マティリアルフロー



10) 受託した産業廃棄物の収集運搬・処分の実績及び運搬料金

①収集運搬、処分実績

2022年(2022年07月　～2023年06月)

処理方法等		廃棄物の種類		処理量t
(ｉ)収集運搬		がれき類(コンクリート・アスファルト・ガラス等実機くず)		7000.00
収集運搬量合計				7000.00
(ⅱ)中間処理		コンクリート	破砕	30732.00
		アスファルト	破砕	1844.00
		廃プラ	破砕	
		木くず	破砕	
	うち再資源化等	コンクリート	破砕	30732.00
		アスファルト	破砕	1844.00
		再資源化等量小計		32576.00
中間処理合計				32576.00
(ⅲ)最終処分		廃プラスチック		
最終処分合計				0.00
(ⅳ)中間処理後の産業廃棄物	最終処分	廃プラ	管理型最終処分場委託	15.00
		木くず	(ｼｼﾓﾛ開発(株))	10.00
		最終処分量小計		25.00
	再資源化等			
		再資源化等量小計		0.00
中間処理後処分量合計				25.00

②運搬料金

廃棄物の性状・容量及び運搬距離等を考慮し、お見積りいたします。（見積り無料）

２．環境経営方針

環境経営方針

基本理念

有限会社吉川重機は　宮崎市において産業廃棄物処分業（中間処理破砕）を中心に
収集運搬業・建設解体工事業を併せて営んでおり、地球生態系と共生して、持続的に
成長・発展する経済社会の実現に努めます。
また当社は、事業活動を通じて地球環境の保全及び向上に努め、 地域住民から
信頼される企業を目指します。

活動方針

1、省エネ及び排ガスの抑制に努めます。

2、廃棄物の削減、リサイクルに努めます。

3、事業所で使用する環境負荷を高めるもの（電気、燃料）の使用量の削減に取り組みます。

4、水資源使用量の削減に努めます。

5、当社の事業に関する環境の法規制を遵守します。

6、地域環境の保全に寄与するために、社会貢献活動に積極的に取り組みます。

7、この環境経営方針を達成するために、環境目標を設定し、継続的に見直し改善に努めます。

8、次世代の産業廃棄物処理業及び建設業を担う人材育成に努めます。

この環境方針は、当社全従業員に周知徹底するとともに、一般に開示します。

令和02年8月01日改定
平成30年6月20日制定
有限会社　吉川重機
代表取締役　吉川正人

3. 環境経営目標

当社の環境目標は、環境負荷の調査結果より以下のような目標を設定いたしました。
なお、目標設定の基準は2020年度の実績データーを使用しています。

取組み項目（目標項目）（単位）		実施区	年度別環境目標 基準値（2020年度）	2021年度（2021年7月～2022年6月）	2022年度（2022年7月～2023年6月）	2023年度（2023年7月～2024年6月）
1. 二酸化炭素排出量の削減（kg-co_2）		産廃部	387,071.7	383,200.8	381,265.6	379,330.3
		全体	**387,071.7**	**383,200.8**	**381,265.6**	**379,330.3**
	①電気使用量の削減（kWh）	削減率%⇒		1.0	1.5	2.0
		産廃部	17,173.8	17,002.1	16,916.2	16,830.3
		全体	17,173.8	17,002.1	16,916.2	16,830.3
	②ガソリン使用量の削減（L）	削減率%⇒		1.0	1.5	2.0
		産廃部	2,139.7	2,118.3	2,107.6	2,096.9
		全体	2,139.7	2,118.3	2,107.6	2,096.9
	③軽油使用量の削減（L）	削減率%⇒		1.0	1.5	2.0
		産廃部	115,564.5	114,408.8	113,831.0	113,253.2
		全体	115,564.5	114,408.8	113,831.0	113,253.2
	④A重油使用量の削減（L）	削減率%⇒		1.0	1.5	2.0
		産廃部	28,627.2	28,340.9	28,197.8	28,054.7
		全体	28,627.2	28,340.9	28,197.8	28,054.7
2 廃棄物の削減	①. 一般廃棄物の削減（kg）	削減率%⇒		1.0	1.5	2.0
		産廃部	31.1	30.8	30.6	30.5
		全体	31.1	30.8	30.6	30.5
	②. 建設副産物の再資源化率の向上	産廃部	36,679.9t 70.5%	環境経営計画を遵守し、リサイクル率95%以上を目指す		
	③. 受託廃棄物の中間処理〔再資源化〕率向上	産廃部	処理量127,030t（リサイクル率99.9%）	環境経営計画を遵守し、リサイクル率95%以上を目指す		
3. 水資源使用量の削減（年間水資源総使用量）（ m^3）		削減率%⇒		1.0	1.5	2.0
		産廃部	278.3	275.5	274.1	272.7
		全体	278.3	275.5	274.1	272.7
4. 環境保全の取組推進（ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動の実施）		産廃部	6回	6回/年	6回/年	6回/年
		全体	6回			

*2021.8.1 改訂 ・2020年度の実績を基準値として、第二次中期の目標値を設定。
・削減率は、アップは厳しく第一次中期の削減率(1.0　1.5　2.0%)に再度取り組む。
・電気のCO2排出計数は、2021年1月7日公表、九州電力の調整後排出計数0.371を採用した。
・建設副産物の再資源化は、殆んどが解体工事から排出する廃棄物で再資源化は厳しく、目標の95%以上を目指すは、達成できない場合もあります。

※化学物質(PRTR制度対象物質)は、使用していません。
※二酸化炭素排出量は下記の係数に基づき設定した（ 排出量（kg-CO2） = 使用量(A)×排出係数(B) ）

		単位	使用量(A)	排出係数 (B)	
購入電力	九州電力	kWh		0.371	(kg-CO_2/kWh)
ガソリン		L		2.32	(kg-CO_2/L)
軽油		L		2.58	(kg-CO_2/L)
A重油		L		2.71	(kg-CO_2/L)

4. 環境経営目標の実績

環境目標に対する達成状況は以下の通りです。
実績値は、2023年7月～2024年6月までの1年間で、目標値は基準年度（2020年度の実績）の同期間の削減率とする。

取組項目			2023年度目標値（2023年07月～2024年06月）	2023年度実績（20236年07月～2024年06月）	達成率	判定
1. 二酸化炭素排出量の削減（kg-CO_2）		2. 0%削減	379,330.3 kg-CO_2	414,045.2 kg-CO_2	91.6%	×
	①電気使用量の削減（kWh）	2. 0%削減	16,830.3	16,240.0	103.6%	○
	②ガソリン使用量の削減（L）	2. 0%削減	2,096.9	4,193.5	50.0%	×
	③軽油使用量の削減（L）	2. 0%削減	113,253.2	129,450.8	87.5%	×
	④A重油使用量の削減（L）	2. 0%削減	28,054.7	23,730.0	118.2%	○
2. 廃棄物の削減	①一般廃棄物の削減	2. 0%削減	30.5	28.3	107.6%	○
	②建設副産物の再資源化率の向上	環境経営計画を遵守し、リサイクル率を向上	環境経営計画を遵守し、リサイクル率95%以上を目指す	環境経営計画を遵守〔総排出 43786.2 t リサイクル率 78.6 %〕	82.7%	×
	③受託廃棄物の中間処理率の向上	受託廃棄物のリサイクル率向上	環境経営計画を遵守し、リサイクル率95%以上を目指す	環境経営計画を遵守〔総受入 32,491t リサイクル率 100 %〕	105.3%	○
3. 水資源使用量の削減（m^3）		2. 0%削減	272.7	117.0	233.1%	○
4. 環境保全活動の取組推進（ボランティア活動の実施）			6回	10回	167.0%	○

※ 購入電力のCO_2排出係数は、九州電力の調整後排出係数0. 371を使用しました。
※ 達成率は、項目1～3が、目標/実績 100%以上が評価○で、但し、建設副産物は達成とする。
項目4が、実績／目標で100%以上が評価○とする。

5. 環境経営計画とその取組結果及び評価

2023年7月～2024年6月の環境活動計画とその取組結果及び評価は下記の通りです。

※実施期間は全項目7月～翌年6月です。

当年度の環境経営計画				取組結果と評価	
取組項目		活動内容	実施区	取組結果	評価
1・二酸化炭素排出量の削減	①電気使用量の削減	①不在箇所、不要箇所及び昼休み時は消灯する ②パソコン、コピー機等のOA機器は省電力設定にしている ③空調の適温化(冷房28℃程度、暖房22℃程度)を徹底している	総務部 産廃部	①②③とも十分徹底はし、目標を達成した。 次年度も更に周知します。	○ ○ ○
	②ガソリン使用量の削減	①エコドライブを徹底する ・ｱｲﾄﾞﾘﾝｸﾞｽﾄｯﾌﾟ、急発進・急加速及び空ふかしの防止 ②運搬計画や経路を見直し、ｴﾈﾙｷﾞｰ消費の少ない運搬を検討している	総務部 産廃部	解体工事業の増加により現場間の通勤用ガソリン使用量が増加し未達だった。 ①②の活動は意識して実施している。	○ ○
	③軽油使用量の削減	①エコドライブを徹底する ・ｱｲﾄﾞﾘﾝｸﾞｽﾄｯﾌﾟ、急発進・急加速及び空ふかしの防止等 ②建設機械等の始業前点検や定期点検を実施する ③重機や建設機械等は出来るだけフルパワー操作をしないようにしている	産廃部	解体業の件数やチャーター便の増加により軽油を使用する重機の稼働は昨年以上だったが、①②③の活動をほぼ徹底したいことが、目標達成に繋がらなかった。 。	○ ○ ○
	④A重油使用量の削減	①破砕機の段取りを適正な前処理により効率の良い破砕作業をする。 ②破砕機の始業前点検や定期点検を実施する ③破砕機は出来るだけフルパワー操作をしないようにしている	産廃部	当年度も重油の使用量が減少し、目標を達成できた。 活動内容①②③とも従来から徹底している結果と判断し、次年度も継続徹底する。	○ ○ ○
2・廃棄物の削減	①一般廃棄物の削減	①コピーは裏紙使用・両面コピー・縮小・集約コピーに努める ②マイ箸、マイボトル運動を展開している(自分のゴミは自ら処理する) ③ｺﾋﾟｰﾄﾅｰｶｰﾄﾘｯｼﾞや用紙梱包箱などは納入業者に持ち帰ってもらう	総務部 産廃部	一般廃棄物は殆どが紙くずで、ほぼ目標通りの廃棄だった。 ①②③を機会あるごとに活動した。 削減目標は達成できた。	○ ○ ○
	②建設副産物の再資源化率の向上)	①建設残余資材が発生したら、資材倉庫に持ち帰りBOXに保管して再利用を推進する ②全ての建設副産物は決められた方法〔仕様書通り〕で廃棄する。	産廃部	解体工事で発生する残余資材、木くずなどの副産物は計画通りに実施しているが、解体業からの廃棄では最終処分が減りﾘｻｲｸﾙ率は100%だった。	○ ○
	③受託廃棄物の中間処理〔再資源化〕率向上	①産廃排出業者へ分別を周知(指導)し再資源化向上を提案する ②受入れ時の廃棄物種類の確認徹底及び処理場での分別徹底	産廃部	①②ともリサイクル率95%以上は必須であり、排出業者への指導や受け入れ時の確認は欠かさず実施していることが最終処分を減らし、100%をクリアした。	○ ○
3. 水資源使用量の削減 (年間水資源総使用量)		①水道配管からの漏水を定期的に点検する ②車輌や建設機械の洗車は必要最小限で洗車する	総務部 産廃部	①②③ともほぼ、徹底し、解体業の増加にも関わらず目標をクリアした。	○ ○
4. 環境保全の取組推進 (ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動の実施)		①現場付近や事務所は常に清掃し、整理整頓に努める ②現場での地域住民への説明会等で、現場特有の環境問題と対策も説明する	総務部 産廃部	①2回ほどコロナ拡大が報じられ減らして実施した。 関係機関からの要請は無かった。	○ ○
5. 環境型製品・サービスの提供		①環境配慮型の建設機械を使用する(排ガス対策型、低騒音型、低振動型、エコ操作等) ②自主的に騒音・振動・粉塵対策を講じて施工する ③しっかりした工程管理で常に工期短縮に取り組む	総務部 産廃部	①②③とも常に配慮しているが、今後も更に周知し、地域住民からの苦情等にならないようにしたい。	○ ○ ○

6. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画

次年度(2024年度)の環境経営目標及び環境経営計画は以下の通りです。
尚、環境経営目標の詳細は、次ページ(10－2)に掲載しています。
※活動期間は、年間(2024年7月～2025年6月)です。

次年度の環境経営計画				環境経営目標
取組項目		活動内容	実施区	
1. 二酸化炭素排出量の削減		省エネルギー項目の推進	EA21責任者	次年度の環境経営目標の詳細は、次ページ(10－2)に掲載しています。
省エネルギー項目	①電気使用量の削減	①不在箇所、不要箇所及び昼休み時は消灯する ②パソコン、コピー機等のOA機器は省電力設定にしている ③空調の適温化(冷房28℃程度、暖房22℃程度)を徹底している	総務部 産廃部	
	②ガソリン使用量の削減	①エコドライブを徹底する ・ｱｲﾄﾞﾘﾝｸﾞｽﾄｯﾌﾟ、急発進・急加速及び空ふかしの防止 ②運搬計画や経路を見直し、ｴﾈﾙｷﾞｰ消費の少ない運搬を検討している	総務部 産廃部	
	③軽油使用量の削減	①エコドライブを徹底する ・ｱｲﾄﾞﾘﾝｸﾞｽﾄｯﾌﾟ、急発進・急加速及び空ふかしの防止等 ②建設機械等の始業前点検や定期点検を実施する ③重機や建設機械等は出来るだけフルパワー操作をしないようにしている	産廃部	
	④A重油使用量の削減	①破砕機の段取りを適正な前処理により効率の良い破砕作業をする。 ②破砕機の始業前点検や定期点検を実施する ③破砕機は出来るだけフルパワー操作をしないようにしている	産廃部	
2・廃棄物の削減	①一般廃棄物の削減	①コピーは裏紙使用・両面コピー・縮小・集約コピーに努める ②マイ箸、マイボトル運動を展開している(自分のゴミは自ら処理する) ③ｺﾋﾟｰﾄﾅｰｶｰﾄﾘｯｼﾞや用紙梱包箱などは納入業者に持ち帰ってもらう	総務部 産廃部	
	②建設副産物の再資源化率の向上	①建設残余資材が発生したら、資材倉庫に持ち帰りBOXに保管して再利用を推進する ②全ての建設副産物は決められた方法(仕様書通り)で廃棄する。	産廃部	
	③受託廃棄物の中間処理〔再資源化〕率向上 【リサイクル率95%以上】	①産廃排出業者へ分別を周知(指導)し再資源化向上を提案する ②受入れ時の廃棄物種類の確認徹底及び処理場での分別徹底	産廃部	
3. 水資源使用量の削減 （年間水資源総使用量）		①蛇口付近に「節水」を意識させるシール等を貼付ける ②水道配管からの漏水を定期的に点検する ③車輌や建設機械の洗車は必要最小限で洗車する	産廃部	
4. 環境保全の取組推進 （ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動の実施）		①現場付近や事務所は常に清掃し、整理整頓に努める ②現場での地域住民への説明会等で、現場特有の環境問題と対策も説明する	総務部 産廃部	
5. 環境型製品・サービスの提供		①環境配慮型の建設機械を使用する(排ガス対策型、低騒音型、低振動型、エコ操作等) ②自主的に騒音・振動・粉塵対策を講じて施工する ③しっかりした工程管理で常に工期短縮に取り組む	総務部 産廃部	

※運用期間の途中で不具合等が発生したら見直しする場合があります。

6－2. 次年度の環境経営目標（詳細）

当社の次年度環境経営目標(第三次)は、環境負荷の調査結果より以下のような目標を設定いたしました。
なお、目標設定の基準は、2021年度～2023年度の実績データーを使用しています。

取組み項目（目標項目）（単位）	実施区	年度別環境目標 基準値（2021～2023年度実績）	2024度（2024年7月～2025年6月）	2025年度（2025年7月～2026年6月）	2026年度（2026年7月～2027年6月）
1. 二酸化炭素排出量の削減（kg-co_2）	産廃部	478,833.2	474,044.8	471,650.7	469,256.5
	全体	478,833.2	474,044.8	471,650.7	469,256.5
①電気使用量の削減（kWh）		削減率%⇒	1.0	1.5	2.0
	産廃部	17,028.0	16,857.7	16,772.6	16,687.4
	全体	17,028.0	16,857.7	16,772.6	16,687.4
②ガソリン使用量の削減（L）		削減率%⇒	1.0	1.5	2.0
	産廃部	4,547.9	4,502.4	4,479.7	4,456.9
	全体	4,547.9	4,502.4	4,479.7	4,456.9
③軽油使用量の削減（L）		削減率%⇒	1.0	1.5	2.0
	産廃部	144,818.4	143,370.2	142,646.1	141,922.0
	全体	144,818.4	143,370.2	142,646.1	141,922.0
④A重油使用量の削減（L）		削減率%⇒	1.0	1.5	2.0
	産廃部	31,941.8	31,622.4	31,462.7	31,303.0
	全体	31,941.8	31,622.4	31,462.7	31,303.0
2 廃棄物の削減 ①. 一般廃棄物の削減（kg）		削減率%⇒	1.0	1.5	2.0
	産廃部	31.5	31.2	31.0	30.9
	全体	31.5	31.2	31.0	30.9
②. 建設副産物の再資源化率の向上	産廃部	3,640.5 t 91.5 %	環境経営計画を遵守し、リサイクル率95%以上を目指す		
③. 受託廃棄物の中間処理〔再資源化〕率向上	産廃部	処理量30,804.2t（リサイクル率100%）	環境経営計画を遵守し、リサイクル率95%以上を目指す		
3. 水資源使用量の削減（年間水資源総使用量）（ m^3）		削減率%⇒	1.0	1.5	2.0
	産廃部	378.0	374.2	372.3	370.4
	全体	378.0	374.2	372.3	370.4
4. 環境保全の取組推進（ボランティア活動の実施）	産廃部	7%	6回/年	6回/年	6回/年
	全体	7.3回			

*2024.8.1 改訂点 ・2021～2023年度の実績を基準値として、第三次中期の目標値を設定。
・削減率は、2024年度が1.0% 2025年度が1.5% 2026年度が2.0% に取り組む。
・電気のCO2排出計数は、2023年12月22日公表、九州電力の調整後排出計数0.475を採用した。
・建設副産物の再資源化は、殆んどが解体工事から排出する廃棄物で再資源化は厳しく、
目標の95%以上を目指すは、達成できない場合もあります。

※化学物質(PRTR制度対象物質)の使用、購入、保管、移動ともありません。
※二酸化炭素排出量は下記の係数に基づき設定した（ 排出量(kg-CO2) = 使用量(A)×排出係数(B) ）

		単位	使用量(A)	排出係数 (B)	
購入電力	九州電力	kWh		0.475	(kg-CO_2/kWh)
ガソリン		L		2.32	(kg-CO_2/L)
軽油		L		2.58	(kg-CO_2/L)
A重油		L		2.71	(kg-CO_2/L)

7.　環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

関連法規制の遵守状況確認を毎年4回実施しており、違反はありませんでした。
また、地域住民からのクレーム及び訴訟等、及び監督官庁からの指摘もありませんでした。
尚、現場での遵守状況は、月1回の安全パトロールや会議等を通じて常に確認しています。
環境関連法規等は、毎年運用開始時に、「環境省ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ・環境基準法令等」の改定履歴や
産業廃棄物協会からのお知らせ等から見直しと取り纏めを行ってます。
〔当社の主な環境関連法規と遵守状況は下記の通りです。〕

主な関連法規名	遵守事項	遵守評価
廃棄物の処理及び清掃に関する法(廃掃法)	委託契約の締結、マニフェストの交付	遵守
	回収・照合確認（発行後B2,D票90日E票180日以内） A表の5年間保管	遵守
	産業廃棄物管理票交付等状況報告(6月30日までに知事へ報告)	遵守
	保管場所の掲示板設置	遵守
	産廃収集運搬及び処理業に関わる法令（契約書の締結、契約書の保管、計量法、処理困難字の通知他 ）	遵守
再生資源利用省令	・再資源利用計画書・実施書の作成 ・再資源利用促進計画書・実施書の作成	遵守
建設ﾘｻｲｸﾙ法	発注者への書面による計画等説明、完了報告	遵守
	工事着手する日の7日前までに必要事項を都道府県知事に届け出	遵守
	分別解体、再資源化促進、再資源化より得られた資材の使用	遵守
ﾌﾛﾝ排出抑制法	・定格出力7.5kW未満の業務用ｴｱｺﾝ等の簡易点検実施 （建設機械搭載のｴｱｺﾝを含む）　〔重機が対象〕	遵守
大気汚染防止法	・特定粉じん等排出作業の伴う建設工事において、特定工事に該当するか否やの調査・説明および掲示板の設置	遵守 該当工事なし
騒音規制法	・知事へ7日前までに届け出 ・作業敷地境界にて85デシベル以下	遵守 該当工事なし
振動規制法	・知事へ7日前までに届け出 ・作業敷地境界にて75デシベル以下	遵守 該当工事なし

8. 代表者による全体の評価と見直しの結果

評価項目	代表者による評価と指示〔当年度の○評価、●次年度への指示〕
①環境経営計画の実施状況 及び 環境経営目標の達成状況	○環境活動は、環境経営計画(兼)実施状況評価表で確認、計画はほぼ実施されている。 ●次年度(2024年度)は第三次中期の環境経営計画を策定し活動していただきたい。 *----------* ○環境目標の達成状況は、環境経営目標達成状況管理表で確認、当年度は昨年度以上に解体工事業の受注が増加し、ガソリンと軽油の使用量が大幅に増加し未達となり、全社CO2削減が3期連続で未達となったが、他の項目はほぼ達成した。 また、解体工事業から排出する廃棄物の再資源化と受託廃棄物からの中間処理も向上し両方で再資源化率100%を達成した。 ●次年度(2024年度)は第三次中期〔2024～2026年度〕を策定し新目標値でも目標達成の共通意識でエコアクション21を活動していただきたい。
②環境関連法規等の遵守状況	○環関連法規等(兼)遵守評価表によると、当社に関連する法規は毎年7月の運用開始時に取り纏めされ、遵守されていることを確認した。 ●次年度も引き続き遵守で活動していただきたい。
③外部からの環境に関する苦情や要望等	○環境情報記録表によると当年度期間における苦情、クレームが無かったことを評価する。 ボランティア(産廃部周辺の清掃)は、コロナ再発を報じられ2回は実施しなかったが、目標は達成している。 ●次年度も苦情等が発生したら優先的に対応していただきたい。
④その他、全般について	○●特になし
⑤環境経営方針	○●第三次中期も現行方針を継続する。
⑥実施体制	○●実施体制も⑤環境経営方針同様で、現行の体制を継続する。